

一八八六年四月十七日(土)

コシポールでナレンドラたちと共に

聖ラーマクリシュナは、コシポールの別荘で信者たちと共に暮らしていらつしやる。重い病気にもかかわらず、絶えず信者たちの幸せを願っておられる。今日は土曜日。ポイシヤク月五日、チョイト口白分十四日目。一八八六年四月十七日。満月である。

ここ何日か、ナレンドラは毎日のように南神寺ホソキヤシヨルへ行っている——五聖樹パンチャバステイの杜で、神想の修行をしているのである。今日は夕方、そこから戻ってきた。ターラクとカーリーがいつしよである。

夜の八時。月の光を浴び南の風に吹かれて、別荘はまことに美しい。信者たちの多くは階下の部屋で瞑想している。ナレンドラはモニに言った。——「みんな、脱ぎ捨てていきますね——(即ち、瞑想することによって心についた不必要なものを捨てているという意味で)」

間もなくモニは二階の広間に上がり、タクルの傍に坐った。タクルは、痰壺たんづぼとタオルを洗ってきてくれるようにとモニにおっしゃった。彼は西の池に行き、月の光を利用しながらこの二つを清めてきた。